向井　亮二氏（実都農園）

調査日	令和７年８月（就農後10年目）
所在地	小豆島町蒲野
ＵＲＬ	https://www.Instagram.com/mito_farm http://facebook.com/mitofarm310
経営主	向井亮二・愛夫婦
主要事業	果樹、露地野菜
主要作目	カンキツ　100a ブロッコリー　60a スイートコーン　50a ニンニク　30a キウイフルーツ　8a
就農タイプ	新規就農
就農時期	平成28年
労働力	家族　３名（夫婦、妻の父） 臨時雇用　１～８人

ヒストリーあらすじ

・向井氏は、柑橘やキウイフルーツを栽培していた祖父母宅周辺の農家が離農し、農地が荒廃していく様子を目の当たりにし、高校生の頃から将来は農家になり地域の農地を守りたいと考えるようになった。

・大学、大学院と柑橘に関する研究を行った後、新卒で小豆島の農業法人に就職した。営業職として物産展での販売などに携わった。３年間勤めた後、就農を目指し退職。

・愛媛県今治市の農業法人で１年間柑橘栽培の修行を行った後、帰県しJAインターン生として小豆島の先進農家で野菜栽培を学んだ。

・平成28年２月に就農し認定新規就農者となる。青年就農給付金（経営開始型）を活用。就農当初はブロッコリー20a、ニンニク20a、オクラ5aを栽培し、果樹の未収益期間を露地野菜の売上でカバーした。農業用機械は、知人から中古の機械を安く譲り受けるなどし、コストを抑えた。

・令和３年９月に認定農業者となる。SNSを活用することで、販路を拡大させた。

・令和７年に農業士に認定。より高い品質の農作物を生産し、労働力確保と人件費とのバランスを図ることで、経営改善に取り組んでいく。

エッセンス	
●再生・発展・継承	・農地が荒廃するのは一瞬。自ら、荒廃した土地を切り開いて耕し（再生）、作物を育成し（発展）、次代に受け継いでいく（継承）ことを目指して活動する。
●農作物に愛着を持つ	・良い農作物ができるように、農作物に愛着を持って接する。 ・自分たちも農業を楽しむことを忘れない。
●地元の方々へ恩返し	・三都半島を「農の実りある都」にする。 ・地元の方々のおかげで農業ができていることを忘れずに、恩返ししたい。

Mito Farm
実都農園

ブラッドオレンジ（モロ種）

向井氏ご夫妻

不知火の選別

さぬきキウイっこ®

ブラッドオレンジ（タロッコ種）

ニンニクの収穫作業

向井　亮二氏　ヒストリー＜課題と対応策＞

就農前	就農期 平成28年～	確立期 令和２年～	発展・将来構想 令和８年～
●島内の農業法人で、営業職として３年間勤務 ・学生時代から将来的には就農することをイメージ ・農業法人では物産展で販売を担当していた ・果樹農家であった祖父母宅の周りの農家が次々と離農し、農地が荒廃していく様子を見ていたことがきっかけで、農家を志すようになった。	●平成28年に就農 ・就農前からコツコツと準備を進め、農地を取得、開墾した ・中古の機械を用いることで、コストダウンした ・妻の祖父宅が近かったことから、円滑に農地貸借の話し合いを進めることができた。 ・知人から中古の機械を安く譲り受け、コストを抑えた。	●経営の安定 ・品質の向上 ・地元とのつながりから販売をスタート ・SNSを活用した販路の拡大 ・栽培管理上の工夫(摘果、収穫の時期を変えるなど)を行い、果実の品質を向上。 ・SNSで日常のありのままの様子を発信し、消費者が農園のイメージをつかみやすくなった。	●果樹の新品目導入 ・ブドウ(シャインマスカット)やビワ(なつたより)を導入 ・将来を見据えて露地野菜は縮小していく ・柑橘類が塩害で枯れた園地にビワを導入、遊休ハウスを借りてブドウを植栽するなど新たな品目に挑戦。 ・露地野菜は自身が高齢になっても維持できる規模まで縮小予定だが小規模でも続けていく。
●愛媛県の農業法人で柑橘栽培、小豆島の先進農家で野菜栽培を学んだ ・退職後、1年間夫婦で柑橘栽培を学びに愛媛へ ・香川県に戻り、島内の野菜農家で修行 ・元々希望していた柑橘栽培だけでなく野菜栽培も学ぼうと、JAインターン制度を利用し修行した。米、アスパラガス、ニンニク、ブロッコリー等の栽培技術を学んだ。	●露地野菜を出荷し、果樹の未収益期間をカバー ・露地野菜も積極的に栽培した ・１年目はブロッコリー20a、ニンニク20a、オクラ5a、２年目にはトウモロコシにも取り組んだ ・JAインターン先で身につけた野菜栽培技術を生かし、果樹の未収益期間をカバーした。	●鳥獣害、風害、塩害の対策 ・電気柵だけでなく、目の細かいワイヤーメッシュも利用 ・風害や塩害を防ぐため、栽培園地を柔軟に変更 ・電気柵だけではイノシシやウサギが侵入したため、柵の下部にワイヤーメッシュを設置。 ・潮風で枯れたり強風で葉が飛ばされたりしたため、栽培園地を変更し対応した。	●雇用方針の見直し ・現在は家族中心で農作業を行っている ・繁忙期に臨時雇用を行っている ・人手は欲しいが、人件費がかかる。今後、雇用と人件費のバランスを図っていきたい。